

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	こども - 29	発達支援サポートシステム推進事業	☐ 法定受託事務
所管課	こどもみらい部 発達支援室		評価者 発達支援室長 島田 義正
一般	会計	款 15	項 5
目 15			
総合計画上の位置付け	分野名	子育て	施策の方針名 子育て家庭への支援

1 事業の目的

対象	発達に課題を持つこどもの保護者及び支援者等	意図	発達に課題を持つこどもが適切な支援を受けることができるよう、発達障害などの理解及び対応のスキルアップを図るため。
効果	サポーター活動によって、幼稚園・保育所と教育の連携を強化し、地域における幼児期から学齢期までライフステージに応じた継続した支援を行う。また、支援が必要なこどもとその家庭への、支援の充実を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	かまくらっ子発達支援サポーター養成、かまくらっ子発達支援サポーター（会計年度任用職員）の配置	かまくらっ子発達支援サポーター養成、かまくらっ子発達支援サポーター（会計年度任用職員）の配置	かまくらっ子発達支援サポーター養成、かまくらっ子発達支援サポーター（会計年度任用職員）の配置
予算額（千円）	1,066	749	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	1,066	749	0
当初人員配置数	54.5	52.5	0.0
人件費（千円）	78,843	81,685	0
事業実績	かまくらっ子発達支援サポーター養成、かまくらっ子発達支援サポーター（会計年度任用職員）の配置		
決算額（千円）	812		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	812	0	0
人員配置実績数	54.5	0.0	0.0
人件費（千円）	78,716	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	かまくらっ子発達支援サポーター養成講座参加実人数	人	143	↗	137		
	実績につながる活動	講座を2クール実施し、参加者については広報、HP等で公募した。				614		
活2	指標名	かまくらっ子発達支援室サポーター活動実人数	人	65	⇒	54		
	実績につながる活動	養成講座及び同フォローアップ講座修了者のうち希望者を対象に、会計年度任用職員採用試験を実施した。				198		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	養成講座については、参加予定者数を大きく超える申し込みがあり、関心の高さがうかがえる。会計年度任用職員の任用については、講座修了者の活動の入口としての役割がある一方、ステップアップして他の活動を行う退職者があるものの、概ね一定の活動人数で推移している。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	サポーター配置施設で、支援環境が良くなったと感じる小学校の割合	%	未実施	↗	未実施			1 2
成2	サポーター配置施設で、支援環境が良くなったと感じる中学校の割合	%	未実施	⇒	未実施			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	新規指標として、かまくらっ子発達支援サポーター（会計年度任用職員）を配置する小中学校にアンケートを実施して測定予定。そのため、令和7年度については数値がない。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	指標の数値はないが、小学校を中心に継続した配置や、活動時間の増などの相談もあり、支援環境の向上に資する事業と捉えている。なお、中学校では稼働実績が小学校に比して少ないことから、次年度以降指標を踏まえ目指す方向を再検討する。

5 評価結果

評価	妥 当 性	事業に対するニーズ	■ 増えている	□ 変わらない	□ 減少している	
		事業実施の主体となるべき者	■ 市	□ 国・県	□ 民間事業者	□ なし
	有 効 性	事業の成果	□ 十分に出ている	■ 概ね出ている	□ 出ていない	
		事業費削減余地	□ ある	■ なし		
	効 率 性	関連・類似事業との統合	■ できる	□ できない		
		公平 性	受益者負担	□ 導入済	□ 導入予定	■ 導入できない
方向性		評価実施年度の方角性	⇒ 評価実施翌年度以降の方角性			
	事業内容の方角性	■ 事業内容は現状通り	□ ① 事業内容は現状通りとする			
		□ 事業内容は見直し済	⇒ ■ ② 事業内容は見直す	→ □ 拡大	□ 縮小	■ その他
		□ 事業を休止又は廃止済	□ ③ 事業は休止又は廃止する			
		□ 他事業と統合済	□ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→	事業へ統合	
	予算規模の方角性	■ 予算規模は現状維持	■ ⑤ 予算規模は現状維持とする			
□ 予算規模は拡大済		⇒ □ ⑥ 予算規模は拡大する				
□ 予算規模を縮小済		□ ⑦ 予算規模は縮小する				

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	教育委員会で雇用している、学級介助員、まなび場サポーターとのすみ分けや労務管理の一元化。	
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性はない	幼稚園、保育所におけるサポーター活動については、各園の保育観等に合わせたサポーター活動を求められるため、サポーターの質の向上が課題である。	
	総評	かまくらっ子発達支援サポーター養成講座を継続的に実施し、地域における発達障害への理解を促進する。サポーター活動については、小中学校現場では活動への理解は浸透してきているため、引き続きサポーターの質の向上を目指す。幼稚園・保育所におけるサポーター活動については、未実施園も多く周知から課題である。			上位施策への寄与度
					B

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		他市実績として比較対象と考えられる事業がない。							